

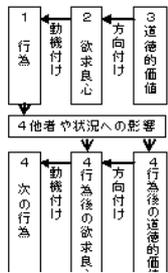
道 徳

北川 忠
松井 由紀

1 道徳における知識創造とは

道徳的課題

より善く生きるために考えるべき課題と捉えている。つぎの4つを考えていく。
1 ある行為をすべきかどうか
2 行為の直接的動機である欲求・良心
3 欲求・良心に影響を与える道徳的価値
4 行為が、他者・状況、自分の欲求・良心・道徳的価値、次の行為に与える影響



道徳的価値

人間らしい善さと考えている。社会規範を内面化したもので、行為を動機付ける欲求や良心を方向づける。礼儀や、節度のある生活習慣など。

道徳における知識創造を次のように定義する。

道徳的課題と向き合い 「ひと・もの・こと」とかかわることを通して道徳的価値の意味や重要性を理解し 自分の行為について思考する 営み
発展として より善い行為や生き方を 追求し実践しようとする 心

「ありがとうって言ってもらってうれしかった」「忘れ物をするくせ、なんとかしたいな」—個々の子どもは、日常体験の中で、気持ちよく過ごすための行為について気づきを生んでいる。

道徳の時間に、日常体験に近い課題や、問題意識を生む課題に出会うことによって、個々の子どもは道徳的課題について考えるべく、向き合うであろう。

教師が示す資料や日常体験などを基に、個々の子どもは、ある行為をすべきかどうか、行為をしたときどのような心情だったのかなどについて話し合ったり、ロールプレイングをしたりする。ある行為をすべきかどうかは、行為の動機と行為による影響から判断されると考えられるが、この動機を方向付けるのが、道徳的価値である。行為がどんな動機によるもので、行為によってその動機の中にある道徳的価値は実現できたのか考えることによって、個々の子どもは、行為をすべきかどうか判断することができるようになるだろう。そして、道徳的価値の意味を理解し、その重要性を再認識して、道徳的価値を高めると考えられる。

そして、高まった道徳的価値を基に、自分のこれまでの行為や今後の行為について考えることによって、個々の子どもは、単なる理想ではなく実際の自分の行為に関わる価値として道徳的価値を捉え、道徳的価値の自覚を深める。深まった自覚を聴き合うことで、道徳的価値の自覚をよりいっそう深めると考えられる。

このように、「ひと・もの・こと」とかかわることによって、道徳的価値を高め、高まった道徳的価値を基に、道徳的価値の自覚を深めることを、道徳における有意義化と考えている。

さらに、発展として、個々の子どもが、より善い行為や生き方を追求し実践しようとする心情や思考を自ら育むことをめざしている。

2 道徳における「プロセスの自覚」を促す・活かす手だて

(1) 道徳におけるよさ

より一般化された道徳的価値を生み出す

道徳におけるよさには、思考のよさと学び方のよさがある。

思考のよさとは、多様な道徳的価値を学び、それらの共通点を結びつけて、より一般化された道徳的価値を生み出すことである。例えば、子どもが、「思いやり」と「友情」という道徳的価値の共通点は「相手のことを考えること」だと考え、この価値を自分の行為に生かしていこうとすることである。

自分の行為を決定するあらゆる場合に、道徳的価値や自他の損得を考えたり、他者の助言を求めたりすることは、実際にはできない。また、核家族化が進み、地域の人々とのかかわりが少ない現代では、生活知、知恵、分別に含まれるような、行為の道徳的な原則を子どもが実生活で学ぶ機会は少ない。特に、本校の子どもは、長距離の通学によって、人間関係が希薄で生活経験も少ないことが懸念される。ゆえに、行為の道徳的な原則となる、より一般化された道徳的価値を生み出すことが重要になる。

相手の思考を受容的に聴き、人間理解を深める

学び方のよさとは、相手の思考を受容的に聴き、人間理解を深めることである。

個々の子どもは、話し合いや聴き合いで、登場人物の欲求や良心などについて意見を伝え合う。これは、登場人物に仮託して、自分の欲求や良心と、それを方向づけている道徳的価値を伝え合うことでもある。

友達と自分の意見が異なっていたとしても、むやみに批判せず受けとめるようにするのは、相手の道徳的価値を尊重し理解するためである。友達の意見と自分の意見と

の差異から、自分の道徳的価値が明確になることもあるだろう。このような経験を重ねることによって、友達や自分を知り、人間理解を深めることができると考えている。

より一般化された道徳的価値を生み出すこと、相手の思考を受容的に聴き人間理解を深めることは、より善い行為と生き方を実践するために重要であると考えます。

(2) よさの共有のための手だて

① 可視化

状況を図式化した板書、思考のつながりを表した板書

心のカードで「かかわり」につなげる

書く活動で「かかわり」につなげる、思考のつながりを確認させる

より一般化された道徳的価値を生み出し、人間理解を深めるためには、行為を動機付ける欲求や良心を明らかにさせる可視化を行い、道徳的価値を明確にするための「かかわり」へとつなげていく必要がある。また、「かかわり」の後には、道徳的価値が高まり、道徳的価値の自覚が深まっていることに気づかせる可視化が重要となる。そこで、つぎのような手だてをとるようにする。

- ア 状況や場面の全体的なイメージがもてるように、行為者や周囲の人物の心情や状況を説明させ、それを図式化した板書をする
- イ 道徳的価値が高まり、道徳的価値の自覚が深まっていく流れがわかる板書を心がける
- ウ 心のカードを用いて、行為者の心情の中にある、相反する欲求や良心などを割合で表すようにさせ、自分の考えをもち、それを書く活動や話し合いなどで表現できるようにする
- エ 行為の動機についてどのように考えるか書く活動をさせて、行為者の欲求や良心について自分の考えを明瞭にさせる
- オ 高まった道徳的価値を基に自分の行為をふり返って書く活動をさせて、道徳的価値の高まりや道徳的価値の自覚の深まりを確認させる

② 「かかわり」

分かりやすく、心を開ける資料を用いる

聴き合いの目的と方法を理解させる

話し合いによって、欲求・良心から道徳的価値へ

より一般化された道徳的価値を生み出し、人間理解を深めるためには、行為者や周囲の人物の欲求や良心に仮託して、自分の欲求や良心を開示し、道徳的価値を明確にする「かかわり」が必要である。道徳的価値を明確にするため、つぎのような手だてを重視したい。

- ア 行為の状況を明確にイメージでき、また、子どもが率直に自分の思考を語ることができる資料を用いる。日常体験を資料化する場合は、現実の人間関係と切り離して学習できるように配慮する。
- イ 話し合いの前に、意見の聴き合いを行う。聴き合いの目的が、意見をたたかわせるのではなく、それぞれの思考や価値観を認め合い理解し合うことだと理解させる。また、聴き合いの方法を、姿勢や表現法から、徐々に身につけるようにする。
- ウ 行為を動機付けた欲求や良心について話し合い、互いの意見の共通点に着目させたり、日常体験を思い出させたりして、欲求や良心を方向付ける道徳的価値があることに気づかせる。

③ 実践的な自覚へのデザイン

必要感のある課題や、語り合いたい資料を提示する

学習後も話題にする

家庭とともに見守る

道徳における実践的自覚とは、個々の子どもが、互いの存在を認め合い、かかわり合って、より一般化された道徳的価値を生み出し、より善い行為や生き方を追求し実践しようとしている状態である。そのために、つぎのような手だてをとりたい。

- ア 一つ一つの授業では、子どもにとって必要感のある課題を投げかけたり、子どもから語り合いたい課題が生まれるような資料を示したりするなど、子どもが課題を自分のものとしてできるように授業設計を工夫する。
- イ 学習した道徳的価値をいつでも目にするように掲示しておき、折に触れて日常経験と結び付けて学級で話題にする。
- ウ 学習の記録を家庭に持ち帰って道徳の学習内容を話すようにしたり、学級便りや個人懇談で子どもの善い行為を伝えたりすることによって、家庭と連携して、個々の子どもの、より善い行為や生き方を求めようとする心情や思考を支え、見守っていくようにする。